

昔の気持ちをすまいと共に

再古炭の

古民家再生事例集吉田建築計画事務所の

古民家には

たたずまいの美しさ、木の温もり、

懐かしい故郷の風景が残っています。

技術の伝承、 先祖の暮らし方を感じるなど、

再生には新しい建物を造る事以上に、

大切な事があると考えます。

自然素材や自然エネルギーを活用し、

現代の暮らしにも合う、

「末永く、 綺麗に安心して、快適に」

住み繋いで行ける古民家再生を

提案しています。

目次

茨城県つくば市・H邸

モダンライフの融合。伝統のしつらえと

茨城県つくば市・M邸

自然エネルギーでスローな暮らし方。先祖の育てた木々と

茨城県城里町・M邸

カフェ&ピザの店 ―――――上間のあるノスタルジックな

茨城県かすみがうら市・カフェ Hanana

先代の知恵と現代の技が融合した

茨城県石岡市・S邸

二百年の記憶。 ――――

茨城県笠間市・S邸

18

蔵スタイルのすまい。 16

茨城県石岡市・T邸

住み継がれていく家へ。古民家を再生し

20

茨城県・A邸

手斧削りの美しい梁組み生業と共に刻まれた歴史、

22

茨城県小美玉市・N邸

温もりが伝わる薪ストーブの家 被災から再生、

24

10

茨城県石岡市・S邸

生活のメインの空間へと再生。かつての土間を

26

14

茨城県つくば市・I邸

木の温もりを感じる住まいカジュアルで

28

古民家再生の流れ 30

古民家再生の仕事

32

0

明治創建の土蔵の再生を行いました。 昭和3年築の母屋と、震災で被災した 周囲には土蔵や古い民家の残る歴史ある集落内に立地。 敷地はつくば市小田、 国の指定史跡小田城址の西側に位置し

茨城県つくば市・H邸



上/被災した明治創建の土蔵を再生。**左**/土間入口を見る。右側は漬 物部屋への勝手口。上部は漆喰塗り、下部は簓子(ささらこ)下見板張 りとし、創建当時の佇まいを復元しました。

茨城の古民家再生 2



震災を乗り越えて

ことや、 良材が使用されていたことが各所に見 見られませんでした。また、 母様が毎日、 に仕口の納まりは、 の職人の緻密な仕事ぶり、 も驚くほどの巧妙さでした。 ともあり、震災での影響はわず 母屋は20年以上使用されずにいたこ 小屋組みもさることながら、 しっかりとした構造だったこ 老朽化していましたが、 戸の開け閉めをしていた 担当した大工さん 吟味された 建築当時 かしか

これからの生活へ求めること

施主からの要望は、民家の大切な特

空間及び北側に大きな開口を設け、 間取りは大きく変化させました。 徴を残しつつ、明るく、風通しの良い 取りは復元し、 機能的な家事動線を考えて浴室を 南側に当たる土間、座敷、奥座敷の ロッパ在住時に購入された、アン ク家具と部屋とのコーディネイ 採光を確保する為に、 機能的で快適な暮ら 耐震補強、高齢のお母様 北側に当たる部分の また、 今回の再生で ご夫妻が 吹抜け 部屋 ま

室と動線を直線でまとめました。

建物中央へ設け、

キッチン、



3 茨城の古民家再生



上/プライベートスペースの小屋裏は梁を現し隠れ家的な雰囲気に。**下**/和室は建 具を修復し、創建時の意匠に復元しました。(欄間は新設)



所 在 地 茨城県 つくば市

I

当

主な外部仕上げ

主な内部仕上げ

夫婦、母親

2012年12月

天井:杉縁甲板・竿縁天井、踏み天井

壁:漆喰塗り 床:栗無垢フローリング、畳 2014 年 茨城建築文化賞(リフォーム部門)

吉田・内田

657.0 ㎡(198.7 坪)

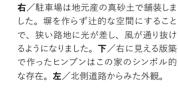
184.71 ㎡(55.88 坪)

木造2階建て(伝統工法)

屋根:日本瓦葺き 外壁:漆喰塗り、簓子下見板張り

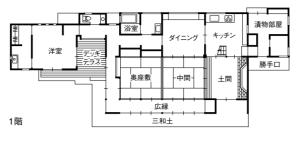
で、狭い路地に光が差し、風が通り抜け るようになりました。**下**/右に見える版築 で作ったヒンプンはこの家のシンボル的 な存在。**左**/北側道路からみた外観。

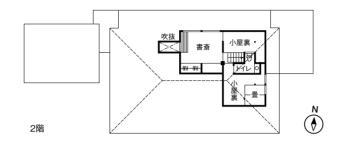
















ン・和室方向を見る。 左/タ モの無垢材を使った、オーダー のキッチンと棚。棚の小窓は漬 物室とつながっています。





を設ける等、

隠れ家的な魅力ある空間

奥様の書斎、

2階は完全なプライ

マでした。

1階に漬物部

な空間とし、

小屋裏にもトイ

となりました。

壁は新築同等の壁量を確保しました。し、土台、足固めを回しました、耐震

)、土台、足固めを回しました、耐震耐震性については基礎はベタ基礎と

幾分かモダンなデザイン

入れま

なるべく違和感の無い

日本の農村ら

将来へ繋げて

いくことを念

外観は創建当時の特徴は残しつつ、

人と技をつなぐ

氏は、 技術の素晴らしさを再認識したと同時 支えてくれました。 工をしてくれました。 ことを感じた現場でした。 後継者育成が急務になりつつある 高い大工技術と気概をもって施出、施工を担当した棟梁の生天目 建具工事、 棟梁同様に非常に高い技術で 改めて日本の伝統 家具工事その他の また、瓦工事、左

其々の居場所

物をつくる部屋にするなど、 趣味である、野菜作りと、その野菜で漬 い思いに過ごせる居場所づく これまで台所だった部屋をお母様の 家族が思



右/洗い出しの土間玄関を入ると、歴史を感じる柱や差し鴨居が優しい表情で迎えてくれます。**上**/かつての茅葺屋根をモチーフにしました。屋根全体にむくりを付けて蛤葺きとし、柔らかさを表現しました。**下**/かつての広間を復元して床を一部檜張りとし、建具はDKに光が入るように枡格子戸へ替えました。



古民家の佇まいと快適な空間

この家の特徴である和室三間(広間、朴さや伝統的な技法を活かしながら、居住性や耐震性、省エネ対策を充分に居住性や耐震性、省エネ対策を充分に居住性や耐震性、省エネ対策を充分に居住性や耐震性、省エネ対策を充分に

を登して見板張りに漆喰塗りとしました。 とこれでは、 を受いなダイニングキッチンへ。 漬物 を受いなダイニングキッチンへ。 漬物 の土間は孫夫婦のLDKとしました。 外観は集落の景観に調和するように、 外観は集落の景観に調和するように、 の土間は孫夫婦のLDKとしました。 がっての横座と部屋は梁を現しにした。 がっての横座と部屋は梁を現しにした。 がっての横座と部屋は梁を現しにした。 がっての横座と部屋は梁を現しにした。

未来に住み継がれることを願って

今回の工事を通して改めて古民家が 今回の工事を通して改めて古民家が 時代の変化にフレキシブルに対応でき る工法であること、関東大震災、東日本 大震災という二つの震災に耐えた粘り のある構造であること、古材に残る手 仕事の跡や生活の香りが、現代の暮ら しに懐かしさや温もりを与えてくれる 事など、現代社会にとても大切な存在 であることを認識しました。施主のM 様より再生のご相談を頂いてから間も なく2年を迎えようとしています。こ か先五十年、百年と住み継がれて行く ことを願ってやみません。



上/道路から、建物東側方向を見る。屋根の妻側だけが、せがい造りになっているのが特徴的。板塀は集落の景観に合わせ、檜を柱に欄間と屋根を設けた欄間付と四つ目垣に植栽としました。右/北側廊下、光を室内へ入れるために枡格子戸にしました。下/寝室はかつて土間空間で梁の位置が低い為、梁の上に天井を作りました。



再生後

1階





データ

所 在 地 茨城県 つくば市 家族構成 夫婦

敷地面積 1123.96 ㎡ (340.00 坪) 建築面積 84.00 ㎡ (25.41 坪)

延床面積 211.36 ㎡ (63.94 坪) 構 造 木造2階建て (伝統工法) 竣 エ 2011 年 11 月

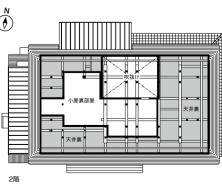
担 当 吉田・内田 主な外部仕上げ 屋根:金属屋根・蛤葺き 外壁:漆喰塗り・簓子下見板張り

| **主な内部仕上げ** | 天井: 杉縁甲板・竿縁天井 壁: 珪藻土塗り | 床: 檜縁甲板、畳

2012 年 茨城建築文化賞(リフォーム部門) 2012 年 いばらきデザインセレクション選定



· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	÷ E	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
		2階



8畳間から右に奥座敷、左に広間を見 この三間は柱、鴨居以外は新材ですぇ 創建時のデザインに忠実に復元しました





上/土間は床を洗い出し仕上げ、壁は珪藻土塗り、天井は創建 当時のままに梁を全て現しとしました。梁は一本一本洗ってから、 古色塗りとしました。左/リビングから土間方向を見る。大阪格 子戸など古い建具も全て修理をして再利用しました。古い建具を 残すことも再生では重要な事です。

茨城の古民家再生 10





上/北西から見た外観、新しい下見板張りと古い材木の対比が実に新鮮な感じがします。**下**/ま るで寺社建築のように手の込んだ、せがい造りと飛燕垂木が見事です。



広縁の一角をディスプレイに。

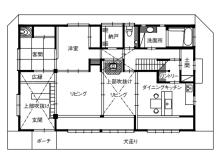
再生前

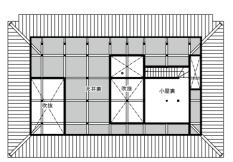
1階

2階

除去音	3				
	和室	和室	和室		
	土間	和室	和室	和室	

再生後





データ 所 在 地 茨城県 城里町

家族構成 夫婦 敷地面積 393.38 ㎡ (118.99 坪) 建築面積 125.62 ㎡ (38.01 坪) 143.29 ㎡(43.35 坪) 延床面積 木造平屋建て(伝統工法) 造 **竣 工** 2010年8月 担 当 吉田・三枝

主な外部仕上げ

屋根:日本瓦葺き

外壁:漆喰塗り・簓子下見板張り 主な内部仕上げ

天井:杉縁甲板・竿縁天井 壁:珪藻土塗り 床:檜

先代の育てた木でスローに暮らす

を要し、特にキッチンや階段の位置は

かい家、 の設置、 の育てた材木を使う、 む建材は使わない、 的には自然光が入る明るい室内、冬暖 べく抑えたエコロジーな暮らし。 薪スト 建具の再利用、 小屋裏利用等でした。 ーブが欲しい、太陽光発電 土間を残す、 収納が沢山欲し 化学物質を含 先祖

基本プランの決定までかなりの時間

し家を下ろしまし

施主からご希望は、化石燃料をなる となりました。 間続き以外の部屋は全く新たなプラン あらゆるパターンを検討。基本的に二

度持ち上げて、 礎は無く石端建て工法の為、 まに土壁も出来るだけ残しました。基 い状態である事などから構造はそのま 本ものであることが分かり、土壁が良 事前調査で梁、 基礎を作り 桁が継ぎ手のない一 土台を設置 建物を一

> 出書院の建具などは修理をして再利用け中廊下も明るくなり、大阪格子戸や 端材を原料とした断熱材を使用。対面 所有の材木を利用、壁は珪藻土、 しました。真冬でもスト 式キッチンは使い勝手を考えオー イドです。 床・天井材の杉板や土台・柱は施主 屋根にトップライ

なりの部分が温まり、 -な暮ら-太陽光発電と併 しとなりました ーブー台でか · 杉の - を設 ダー







トを設け、室内に自然光が注ぎ込みます。

心地よいひと時をお過ごしください。
 心地よいひと時をお過ごしください。
 で、このお店のシンボルとなっています。建築主と友人たちが週末に集まりせった農家生産のオーガニックな食材を地元農家生産のオーガニックな食材を地元農家生産のオーガニックな食材を地元農家生産のオーガニックな食材を地元農家生産のオーガニックな食材を地元となっていまった。

こを訪れた人がのんびりと過ごすここを訪れた人がのんびりと過ごすここを訪れた人がのんびりと過ごすここを表れていた素朴な自然素材として使われていた素朴な自然素材として使われていた素朴な自然素材として、天井は古材を現し、カウンターは材を再利用。洗面ボウルは地元笠間でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。室内外でコーディネートしました。

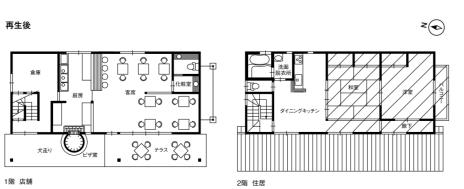


右上/床は三和土、壁は漆喰塗り、天井は既存にステイン塗装としました。**右下**/土庇の下にテラスを設けオープンカフェに。床は室内と同じ三和土仕上げです。冬はやわらかい日差しの中で日向ぼっこ。夏は深い軒で日差しを遮り、林を通った涼しい風が通り抜けます。**左**/素朴なデザインの店内、差し鴨居の向こうが厨房です。

データ 所 在 地 茨城県 かすみがうら市 敷地面積 867.63 ㎡ (262.46 坪) 建築面積 92.74 ㎡ (28.05 坪) 延床面積 139.12 ㎡ (42.08 坪) 構 造 木造2階建て (店舗併用住宅) 竣 エ 2008 年 7 月 担 当 吉田・内田 主な外部仕上げ

主な外部性上げ 屋根:日本瓦葺き 外壁:漆喰塗り 主な内部仕上げ

天井:踏み天井 壁:漆喰塗り 床:三和土 (たたき)





データ

茨城県 石岡市 所在地 家族構成 夫婦、子ども2人 1091.94 ㎡ (330.31 坪) 建築而積 166.04 ㎡ (50.23 坪) 219.29 ㎡ (66.34 坪)

2010年5月 吉田・内田

当 主な外部仕上げ

屋根:日本瓦葺き、金属屋根

外壁:漆喰塗り・簓子下見板張り、檜板張り

主な内部仕上げ

天井:杉縁甲板・竿縁天井 壁:珪藻土 床: 檜縁甲板、杉縁甲板

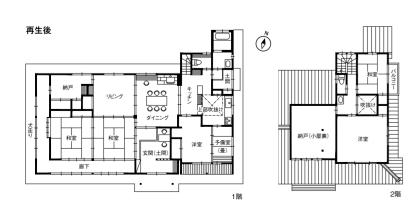
建て部分は生活動線を重視した機能的 室内のデザインは既存部分については 創建時の通りに復元し、 るく暖かいすまい 外観は脇蔵のイ 土台を設置後に下ろして 工事が始まり、 増築部分と一体の 先に既 民家の

観としました。 大屋根の意匠と蔵造りが一体となる外 そのあと増築部分の建て方を

ス瓦を用いて自然光が差し込む明る 暗かった中 央部の部屋には屋根にガ 建物全体の断熱性能



上/手前が今回増築した2階建て、下部を檜板張りとし上部を漆喰塗りとした、脇蔵のデザインを モチーフにしました。 $\mathbf{右}/\mathbb{E}$ 根の上に突き出た小窓は、小屋裏部屋への採光用の窓です。 $\mathbf{左}/\pm$ 間より8畳、奥座敷を見る。敷居や鴨居に時代を経過した存在感を感じます。



設)新たに軸組み工法と融合させる試

みはこの建物の特徴的なところです。

内外装共に県産材杉・檜と漆喰、 土など自然素材で行う事としました。 伝統工法を残して(一部耐力壁を増 った様です。 前からと思われる腐食が見られまし ました。 天井が張ってあったので気づかな そこへ新たな構造で2階建て 既存部分と接続する提案を この部分は切り離して 設計の基本として かな 築105年の民家を三世代6

茨城県石岡市・S邸

冬暖か

らの

地震に耐えられる

建物の土 ・ブの設置 平屋建寄棟造りの民家。

明治40年に石岡市内に創建された







上/ DK、食器棚、ダイニングテ−ブル、アイランドキッチンは楢材を使用しオーダー で製作しました。奥に薪ストーブを設置。上右/土庇は夏の日差しを遮り、涼しい風を 室内へと運びます。木製サッシュを開けると土庇、土間、室内が一体空間となります。 **上左**/玄関より階段をみる。階段は全て大工さんの手刻みです。**下**/再生後の建物正 面の外観。周囲の風景とのマッチングと既存建物の面影を残すことを考慮しました。





所 在 地 茨城県 笠間市 家族構成 夫婦、子ども

3,033.55 ㎡(917.65 坪) 建築而積 181.60 ㎡(54.93 坪) 192.94 ㎡ (58.37 坪) 造 木造2階建て(在来工法)

工 2007年6月 担 当 吉田・三枝

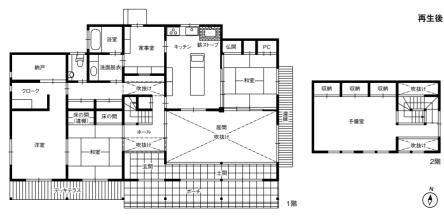
主な外部仕上げ

屋根:日本瓦葺き、金属屋根 外壁:漆喰塗り・唐松ドイツ下見板張り

主な内部仕上げ

天井:杉縁甲板 壁:珪藻土塗り 床:杉縁甲板

2009 年 茨城建築文化賞(住宅部門)



風が室内を通り抜けます。 シ及び樹脂サッシとしました。 の日差しを遮り、 り及び珪藻土塗としま けは肌触りと調湿機能を考えて杉板張 然乾燥の地場産材を使用 とがで 分な断熱を施し、 ーブを設置。建具は木製サッ 暖房は北欧製の高性能 抜けます。冬の寒さに、土間で冷やされた涼 檜の 屋根・外壁に通 した。 が材木は、 内装の仕上 土庇が夏 天

化・腐食もほとんどありませんでし 面に土庇を設け が見られましたが、 のシンボルにと設計を進めまし 外観は切り妻の大屋根とし、 調査の結果、 この梁組みを甦らせ新たな家 たが、小屋裏は状態がよ、土台や梁は劣化・腐食 屋根は地場産 建物正 た。 劣

あるリビング

ムとダイニングキッ

ンの上部に再生

梁の組み

同様の理由で、

生命力と古材独特の優雅な曲った。仰ぎ見ると、自然の持く太い梁が、二百十数年の時た。幾重にも絡み合いながらた。幾重にも絡み合いながらか。

いぶし瓦で葺き、

外壁の仕上げはド

見板張りと漆喰塗としました。

の豪快な梁組みは家の中心で

経て甦っ

の温もりを感じる

19 茨城の古民家再生 茨城の古民家再生 18



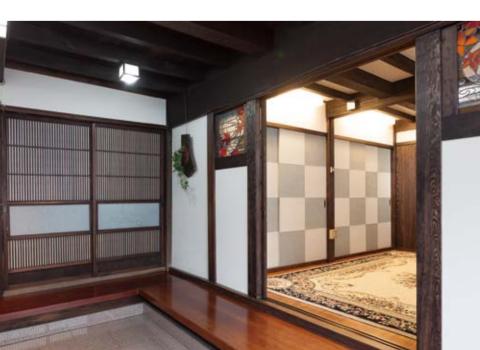


上/商談スペースとして使われて いた部屋は趣味の部屋へと改修。 茨城県無形文化財の西ノ内和紙 を使用。**下**/かつての商家らし い凛とした佇まい。開口部が多 い間取りなので、耐震壁を設置 するなどの耐震補強工事を行っ ています。窓には木製面格子を 取り付け町屋らしい景観へ。

再生後









左/土間玄関からの眺め。大正ロマンを思わせ る欄間のステンドグラス。

データ

茨城県

構 造 木造2階建て(伝統工法)

竣工 2014年2月

担 当 吉田・八木 主な外部仕上げ

屋根:日本瓦葺き 外壁:漆喰塗り・簓子下見板張り 主な内部仕上げ

天井:杉縁甲板・竿縁天井、踏み天井

壁:漆喰塗り

床:桐無垢材フローリング、欅(けやき)板張り



しっかり なりました。 造的な不安があったため安全性を考慮 不同沈下や雨漏り のメンテナンスを適切な時期に行って せる住まいとして、 を確保しました。 ては接合部を補強。 いることもあり、古民家にありがちな 土台や屋根、 今後三世代が安心して快適に暮ら 耐震壁を設置するなどの補強工事 引き戸を多用し、 いました。 古民家としての佇まいを保ちつ してい 外壁などの主要な部分 開口部を少なく もなく、 開口部が多く、 再生させることに 構造部分にお スムーズな動線 桁・梁も 、する 構

されました。 それぞれ職人の手によって丁寧に再生 他にも建具や箱階段、 いケヤキの木目が鮮やかに蘇りました。 (木材、石)は捨てずに出来る限り再利新建材は使わず、解体時に出る古材 材料や技術的側面から、 表面を削ると光沢のある美し 床板は張り替える予定で 長火鉢、 古民家を新 椅子が

茨城の古民家再生 20

江戸時代中期から続いていた旧商家









上/寄棟造りの屋根に、白い漆喰と黒く塗られた簓子下見板張りの外観。右下/差鴨居の天井側 部分にスペースを開ける事で開放感を出しています。左中/玄関から見た土間空間。衝立は丸く 抜かれた明かり取りに障子をあつらえました。 左下/書院は再生後にリビングの一部として使って います。

家業と共に古民家を引き継ぐ

替えられた古民家です。 からの依頼です。およそ90年前に建て 白い漆喰と黒く塗られた簓子下見板 家業の造園業を営む若い30代の夫婦

けることで、お客様が気軽に入って来玄関には細めの材で造った庇を取り付 張りの外観は品格のある美しさが特徴。 られる雰囲気としました。

樹木を育てることを生業とする家ら

りと障子をあつらえています。壁に使しの衝立には、丸く抜かれた明かり取土間部分は打ち合わせスペース。目隠が目に飛び込んできます。洗い出しのが をかけて育った樹木たちは、いとの要望で作られました。 自然のカタチをできるだけ残して欲し をやわらかい雰囲気で包んでいます。 用した素朴な色の珪藻土が、空間全体 木製のテーブルと素朴な丸太椅子は、 ・長い年月 カタチを

> いくことでしょう。 ゆったりとした時変えて、人の営みと共に歴史を刻んで 会話が楽しめます。 の流れる空間で、落ち着いた雰囲気で くことでしょう。ゆったりとした時

けたりと、ご夫婦が幸せな時間を過ご 配置されています。デッ せる癒しの空間になっています。 ペット (猫) のキャッ インテリアに合うように仕立てました えたリビングは、趣味のアジアン調の 自宅エリアは土間空間を囲むように トウォークを設 キテラスを備

所 在 地 茨城県 小美玉市

3577.02 ㎡ (1082.05 坪) 179.22 ㎡(54.21 坪) 190.71 ㎡(57.69 坪)

木造平屋建て(伝統工法) 造 工 2014年3月 担 当 吉田・恩藏

主な外部仕上げ 屋根:日本瓦葺き

外壁:漆喰塗り・簓子下見板張り

主な内部仕上げ

天井:杉縁甲板・竿縁天井 壁:珪藻土塗り





書院の欄間を再利用







右上/お父様の思い入れの深い和室は、あえて手を加えずに補修程度としました。 左上/重厚感のある入母屋造(いりもやづくり)の屋根に、 モダンなデザインの玄関を組み合わせました。左/書庫の 書棚。所有している本のサイズ やジャンルを分類し、機能的に 収納できるよう設計しました。









データ

所 在 地 茨城県 石岡市 家族構成 母、夫婦、子ども 建築面積 143.26 ㎡ (43.33 坪)

143.26 ㎡(43.33 坪)

構 造 木造平屋建て(伝統工法)

エ 2012 年 4 月 **当** 吉田・恩藏

主な外部仕上げ 屋根:日本瓦葺き 外壁:スイス漆喰塗り

主な内部仕上げ 天井:杉縁甲板・竿縁天井

壁:スイス漆喰塗り 床:ナラ無垢フローリング しやすいように設計してあります。や分類分けを行い、見たい本が取り出望で書庫を作りました。書棚はサイズ

リビングにはご主人の要望で薪スリビングにはご主人の要望で薪スカラスの引き戸を開けると、広々とした。 古材と自然素材の、やさしさと温また、リビングとダイニングを仕切る、また、リビングとがイニングを仕切る、たワンルームになります。

供たちをみたり、

休日には家族みんなーニングで勉強する子

キッ

チン・

ダイニ

ングはコミュニケーで一緒にお料理と、

ショ

ンの中心の場

式のカウンターで朝食を。夕食の準備

るよう設計しました。忙しい朝は対面

イニングにいる家族と目線が同じにな

応できる間取りとなっています。

キッチンは、

料理をする奥様と、

断熱性能もアップ、車椅子の生活に対して大切な差鴨居を活かし、構造材として大切な差鴨居を活かし、構造材として大切な差鴨居を活かし、構造材として大切な差鴨居を活かし、本ではました。

東日本大震災によって大きな被害を



リビングより応接室方向を見る。黒い手斧削りの梁や桁が蘇りました。



上/檜の壁と天井のハーフユニットのバス。脱衣所は杉板張りでナチュラルに。 **右**/土間玄関への入り口。**中**/土間の一部を残し玄関としました。**左**/勝手口の土 間は漬物を漬けたり、畑から帰ってきて着替えたりと使い勝手を考えて。



るのでチ

ク材を張り床暖房とし、

ま

モダンデザ

リックに甦りました。

土間の床は冷え

梁や桁が、

生活の中心の場に、

シンボ

120年の時を経た、黒い手斧削りのの状態に戻す作業から始まりました。

後の再生工事の一つの手法としていき

が場所によって異なることもあり、

今

幾多の修繕をして

いる為、

建物の状態

スでしたが、古民家の場合、これまでに

部分再生は私も初めてのケ

たいと思いました。

工事は新建材を撤去

して、

創建時

空間が直接見えないようにしました。

和の空間からモダン

ンのキッチンとの間

データ

所在地 茨城県 つくば市

家族構成 夫婦

敷地面積 1302 ㎡ (393.86 坪) 建築面積 203.36 ㎡ (61.52 坪) 185.25 ㎡ (56.04 坪)

内再生部:70.07 ㎡ (21.20 坪) 木造平屋建て(伝統工法) 造

工 2013年3月 当 吉田・恩藏

主な外部仕上げ

屋根:日本瓦葺き

外壁:漆喰塗り・杉板張り、ガルバリウム

主な内部仕上げ

天井:杉縁甲板・竿縁天井、踏み天井 壁:珪藻土塗り、杉板張り 床:チーク

再生後 応接室

場での変更がいくつか発生しましたが、 対して技術と気概をもってあたってく 大工さんはその都度、こちらの要望に 現

はっきりと分からない部分も多く、現基本的に事前調査は行いましたが、

柱の断面が大きい事が特徴的でした。 根に改修されました。当時としては欅 の柱が随所に使用されていることと、 昭和36年に茅葺屋根から現在の瓦屋 施主のご要望は、 三十数年前のリ

まった、

かつての

土間の大黒柱や梁・

ムの際に新建材で塞がれてし

桁を再び

現して、

古民家らし

い風情

ある家としたい、また隣接

間と使い勝手の良い

プラ

ンにしたい の為の土間空

と

りとし、農作業(趣味)

の事でした。

工事は建物全体でなく、

約21坪の部分再生と

約21坪の部分再生という形になりンに延べ床面積の約4割に相当す

する物置空間を、 (陰翳礼讃)

明るく機能的な水廻

27 茨城の古民家再生 茨城の古民家再生 26







上/外観は建築当時そのままの姿で残し、玄関扉と照明をシンプルなデザインのものとしま した。**中右**/浴室には十和田石とヒノキを使用しました。**中左**/ダイニングキッチンは明るく ウッディな雰囲気に。下/リビングは押し入れだった場所に薪ストーブとテレビボードを設置。

データ

所 在 地 茨城県 石岡市 615.90 ㎡ (186.31 坪) 149.51 ㎡(45.23 坪) 建築而積 190.55 ㎡(57.64 坪) 造 木造2階建て(伝統工法) 工 2013年10月 担 当 吉田・川崎

主な外部仕上げ

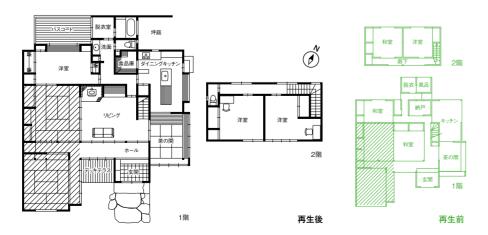
屋根:日本瓦葺き

外壁:漆喰塗り・簓子下見板張り、一部ガルバリウム

主な内部仕上げ

天井:杉縁甲板 壁:オーストラリア漆喰塗り

床:ナラ無垢フローリング



ッチンに家族が集う

そのままに、 築35年の純和風建築を、

case:11

陽の光がいっぱ 高断熱&耐震婦

安心の住まいです。 の温もりを感じる、

ームしました。

た無垢材の組み合わせに温もり

を感じ

家族が

ョンを重ねる大切な場所家族が一堂に集い、コ

央に置かれた大きめのテー

やすく、

会話

した。

チンを配置

ンとして生まれ変わりました。壁や天

床材や天井などに使用し

大きめの窓を配置し、陽の光がいっぱ

台所は北側に配置されていましたが

入る、

広々としたダイニング

キッ

茨城県石岡

面リフォームしました。 カジュアルな雰囲気に全紀和風建築を、外観はほぼ

29 茨城の古民家再生 茨城の古民家再生 28

に薪スト

ブとテ

レビボ

ードを設置。

リビングは元々押、

し入れだった場所

上げてあります。

和に傾倒しすぎな

ある竿縁天井をそのままに、

障子から

前にある和室は、

品格の

んの陽の光を取り

入れました。

空間にしました。また、

床・壁・天井

チンと同じナチュラ

ルな素材感の

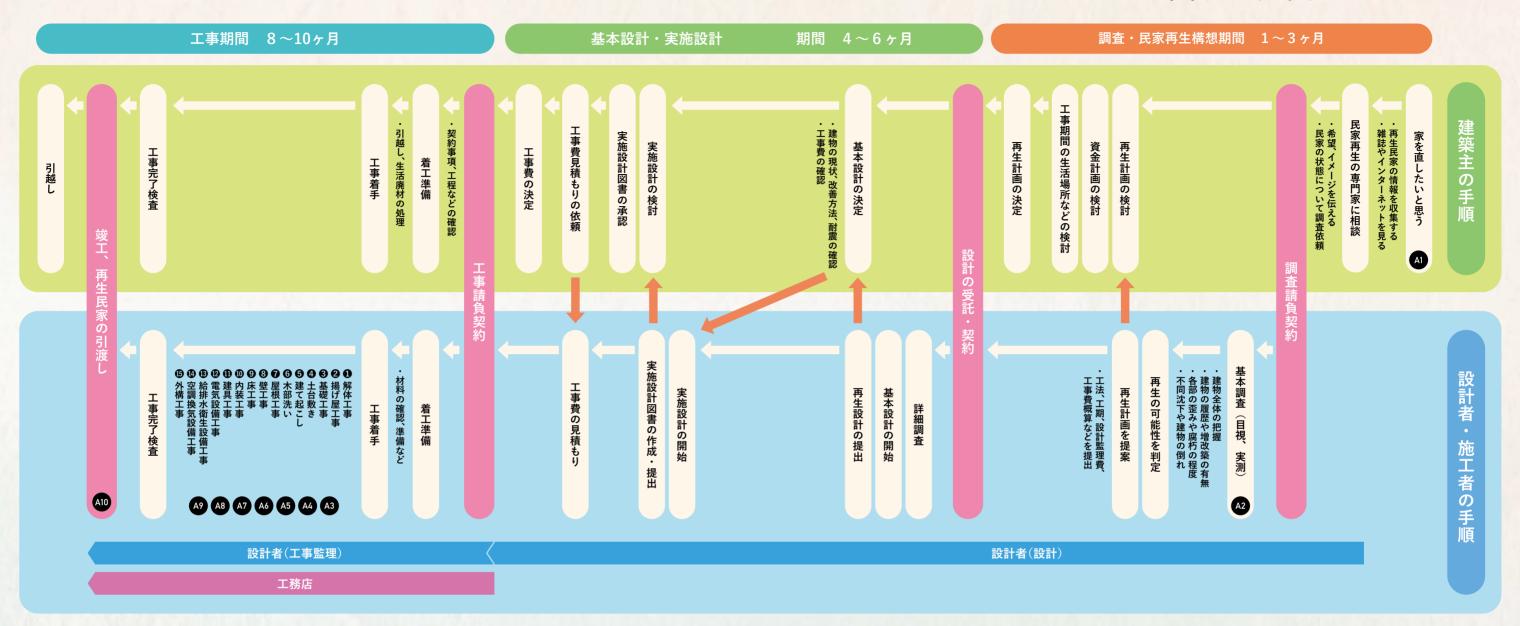
を高断熱としたことで冬の寒さ対策も

床下地に構造用合板を張り、

震壁を設けるなどの耐震補強工事を併

せて行っています。

古民家再生のながれ









を、ワイヤーやジャッキを使って、元の垂直の 状態に少しずつ戻す。





仕上げ工事: 左官屋さんが伝統工法による 継ぎ手等の補修: 解体時に部材に腐朽や痛 みがあった場合、できるだけ同材で補修して



土台に鉄骨を通し、建物全体を持ち上げ、基



不同沈下等が起きない強固な建物とする。



揚げ屋工事:再利用部分を残し解体した後、 現地調査:実際に現場を見て採寸し図面に する。この時に既存の梁や柱の腐朽、老朽化、 雨もり等を入念に調べる。



基礎工事:揚げ屋工事後、新しい基礎を作り、解体工事:物件によって解体範囲は異なる。 既存の梁、柱などを残し、壁、天井、床組みな どを撤去する。



現地再生前

さまざまな思いをこめた再生事例を資料集としてまとめてみました。 した民家は22件となりました。施主との対話、建物や風景との対話を通し、 あまり知られていませんが、茨城県内には江戸末期から昭和初期に建て 県内各地で民家再生の仕事に携わって約15年が経ち、調査、改修・再生

切に使われています。 々が多いのも事実だと思います。 れた、良質な木組みによる魅力ある古民家が数多く残っており、今も た中、その保存や活用方法に苦慮されている

つあると感じます 認識させられた中で、各地域の暮らしや風土を今に伝え、美しい原風景 作ってきた民家は、改めて また、未曾有の東日本大震災を経験し、 "地域の大切な存在" 地域コミ として認識が広がりつ の大切さを

掲載しました再生事例の多くは、先祖の建てた家を世代交代して住み繋

為の、様々な外構デザインのあり方やその取り組みについても紹介してい 保ちながら、地域的な面からの生活環境を提案することも大切です。その 境、構造、家族構成、住まい方のこだわりなど、様々に特徴がございます。 な機能やデザインを訴求する再生の提案をしています。各事例とも周辺環 また、住みよい民家再生のための工夫として、歴史ある町並みの景観を 現地再生がほとんどです。 昔の雰囲気を残しつつ、現代の生活に必要

感じる古民家を一棟でも多く再生し、次世代へ継承して行くお手伝いをし 健康的に暮らせる木の家をご提案いたします。誰もが懐かしさや温もりを いきたいと思っています。 弊社では、これまでの実績を元に、古民家再生によって安全で快適かつ

吉田良

_{有限会社} 吉田建築計画事務所

〒 315-0001 茨城県石岡市石岡 1-1-8

〒 305-0047 茨城県つくば市千現 2-1-6

http://www.iezukuri.co.jp/

E-mail:info@iezukuri.co.jp

TEL. 0299-56-3246

TEL: 029-854-0203

つくば事務所



茨城の古民家再生

2014年2月発行 定価1,000円

編集・デザイン 佐藤情報デザイン室

吉田 良一

関東学院大学建築設備工学科卒。マトリックス都市建築設計事務所を経て、 1994年 吉田建築計画事務所設立。2009年 茨城建築文化賞(住宅部門)。 2011年 いばらき建築環境プロポーザル入選。2012年 いばらきデザイン セレクション選定。2012年 茨城建築文化賞(リフォーム部門)。2013年 茨城建築文化賞 入選。2014年 茨城建築文化賞(リフォーム部門)。

Ryoichi Yoshida

